

## フウゾクジョウ サンプル版のダウンロード、誠にありがとうございました。

### ■ Acrobat Reader 4.0(4.05a)をご使用の方へ……

本書発行現在、Acrobat Reader の最新バージョンは、Acrobat Reader 5.0.5(無償)です。

※小社の電子書籍は全て、Acrobat Reader 4.0(4.05a)あるいは5.0(5.0.5)のどちらでもご覧いただけます(3.0は不可)、バージョン5.0.5は軽快なインターフェースに加え、描画品質がかなり向上しています。

お使いのパソコンシステム環境が許せば、5.0.5への無償バージョンアップをご検討ください。  
詳しくは、当サイト <http://www.dex-one.com/> の Acrobat Reader ロゴよりリンク先ページをご覧ください。

### ■ ページを進める(戻る)には……

進む=右 or 上矢印キー あるいはEnter(return)キー  
戻る=左 or 下矢印キー

### ■ 全画面を解除するには……

Windows ▼[Ctrl+L] あるいは [esc] キー  
Macintosh▼[Command+L] あるいは [esc] キー

### ■ 終了するには……

Windows ▼[Ctrl+Alt+Delete]  
Macintosh▼[Command+Q]

sample版

# フウゾクジョウ 風 俗 嬢

現役風俗嬢が自らを赤裸々に綴った衝撃作

成瀬 みずき  
written by Mizuki Naruse

考え方は人それぞれなのだから、  
この内容をすべての人に共感してもらおうとは思わない。  
私の文章は矛盾している部分もたくさんあると思うし、  
読んでいて気分が悪くなる人もいるかもしれない。

けど、こういう生き方もあるんだってこと  
こういう人間もいるんだってことを知ってもらえたら  
ちょっとうれしい。  
それでもし、私という人間に少しでも興味を持ってもらえたら  
もっとうれしい。



みずき

サンプル版にはこのお話しの  
途中まで収録されています。  
以降のコンテンツは製品版で  
お楽しみください。

## 第1章 女子高生

● プロローグ *prologue*

- 処女を捨てた日 ————— 008
- 経験 ————— 015

## 第2章 キャバクラ

- 初めての源氏名 ————— 021
- 過剰な営業 ————— 028
- 最盛期から卒業 ————— 033

## 第3章 社会人

- 入社と退社 ————— 038
- 援助交際 ————— 045

## 第4章 イメクラ

- 風俗店の面接 ————— 051
- 風俗嬢になった日 ————— 058
- 心の葛藤 ————— 065

## 第5章 デートクラブ

- スカウト ————— 070
- しばらくの引退 ————— 077

## 第6章 ホテル

- 半年ぶりの風俗嬢 ————— 083
- ラブホテルにて ————— 090
- カミングアウト ————— 096

● エピローグ *epilogue* / 著者プロフィール *profile*

## 処女を捨てた日

私は、子供の頃から『性』への関心が強かった。早く大人になりたい。大人になってセックスというものをしてみたい。まだ生理も始まらないというのにそんなことばかりを考えるような、ませた子供だった。

中学生になった私はその思いがさらに強くなり何人かの同級生の男の子とつき合ってみることにした。

だけど、誰もが奥手でセックスはおろかキスを迫ってくる子さえいない。だからと言って自分から迫ることができるほど積極的だった訳でもなく結局は一緒に帰ったり時々どこかへ遊びに行ったりする程度の、健全な交際ばかりを続けていた。

処女のまま中学を卒業。高校に進学した私は部活には入らずガソリンスタンドでアルバイトを始めた。そこで出会ったのが3つ年上のタツヤ。

大学生の彼は、高校に入ったばかりの私にはとても大人の男に見え、少しくールで何を考えているのかまったくわからないようなところがとても魅力的で少しずつ彼に惹かれ始めていった。

真夏の太陽が照りつけるガソリンスタンドで私たちは時にはがむしゃ

らに働き、時にはくだらないことを話してはゲラゲラと笑いあった。学校という閉ざされた世界しか知らない私にとって、ここでのひとときは性的なことをすっかりと忘れさせるほどに楽しいものだった。秋が過ぎ、冬になってもその生活は変わらなかった。

そんな高校1年の正月、タツヤと2人で初詣に行く事になった。私が行こうと誘ったら彼が気軽にオッケーしてくれたからだ。

車で迎えに来てもらい、少し遠くの神社までドライブをする。道が混んでいたのて神社には参拝せず、元旦早々営業していた遊園地に入ることになった。ジェットコースターに急流すべりにお化け屋敷。正月のせいかガラガラだった遊園地で夕暮れまで遊び、気がつけば私たちは自然に手をつなぎ合っている。お化け屋敷の中、私を見つめる彼の目が少し潤んでいるように見えた。

最後に観覧車に乗ろうと、なんとなく手をつないだままちっぽけな箱の中へと入っていった。

観覧車がちょうど1番真上にさしかかる頃、タツヤがすぐそばに来て耳元でつぶやいた。

「やりたい。」

彼は私の肩に腕を回しながらそう言った。

だけど、その時の私は『彼氏でもないこの人とどうしてやらなければいけないだろう……』とぼんやりと考えていた。

そんなことを考えているうちに彼に抱きしめられ、気がつけば彼の顔が目の前に迫っている。

初めてのキス。だけど突然舌を差し込まれた私は『キスがこんなに気持ちの悪いものだったなんて』と少しショックを受けていた。初めてのキスは軽いものだとばかり思っていたからだろうか。

そして私たちは何もなかったように観覧車を下り、乗る前と同じようにはしゃぎながら遊園地をあとにした。

夜になると、彼はまたキスをしてきた。だけどまだ純情だった私はつき合ってもいない男に、そんなことをされることにものすごく嫌悪を感じてしまい、かたくなに彼を拒否し続けた。

「好きでもないのにそんなことしないで。」そう言うとタツヤは、  
「つき合おう。」と言った。

彼が何を考えているのかよくわからなかったが、とりあえず私たちはつき合うことになった。私のことを好きでないのはなんとなくわかってはいたが、どうせ誰かと初めてのセックスをするのなら自分が気に入った男とした方がいいと思ったからだ。[以降、製品版でお楽しみください]

サンプル版のダウンロード  
ありがとうございました。

フ　ウ　ゾ　ク　ジ　ョ　ウ  
風　　　　　　　　俗　　　　　　嬢

成瀬みずき・著

製品版販売価格 ￥200(税込)

本書の内容、画像一切の複写複製（コピー）・転載・転訳など  
著作権に関わる行為は、事前の承諾なき場合これを禁じます。

製品版のお求めを心よりお待ちしております。  
<http://www.dex-one.com/>

- 下のロゴより dex-one.com サイトへ、接続  
できます。全画面を解除してから、ロゴをク  
リックしてください。

[全画面解除]は  
ここをクリック

